

科目コード	5100031	単位	2	時間数	30		
授業科目名	法律を考えるB - 法学 -	開講学期等	後期	時間割	金5・6		
授業科目名英字	Jurisprudence B : Outline of Civil Law						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1・2年				
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10~5:40		【場所】	西台研究室(3-328)		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>まず一般教育(General Education=本学では教養基礎と呼んでいる)の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭にkeepしているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。</p>				<p>自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか?」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。</p>			
カリキュラム上の位置付け	最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い 2 時代の流れ 工業化社会から情報化時代へ 3 教育と価値観の変化 4 権利の種類 公権と私権 5 法源 成文法と不文法 6 法律の解釈 反対解釈と類推解釈 7 罪刑法定主義批判 8 刑事訴訟 糾問主義と弾劾主義 9 自由心証主義 証明の意味 10 私的自治の原則 11 不意打ちの禁止 12 無効と取消 13 消費者金融 14 不動産の二重売買 15 試験 						
授業に関連するキーワード	債務不履行		法律行為		登記		
	無効		不法行為		超過利息		
	証明						
成績評価の方法	7月中旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『理論民法』		西台満	高文堂出版社	平成17年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は、大学付属図書館の開架に約5冊ある。						
自由記述欄	質問を歓迎する。						

科目コード	5100040	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本国憲法A - 自分の憲法観が持てるように -	開講学期等	後期	時間割	金7・8		
授業科目名英字	The Constitution of Japan A						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に係る授業科目	くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナール - 人権の現代的諸相 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日 18:00～19:00		【場所】	教文3 - 330		
授業の目的				授業の到達目標			
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解				1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。本授業科目は統治機構に主眼がかけられており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法の視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。</p> <p>【進行予定と進め方】 1～2回．国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回．平和主義：9条の解釈 5～6回．国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回．内閣：議院内閣制など 9～10回．裁判所：司法権の概念と帰属など 11回．地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回．基本権：種類，享有主体など 15回．基本権：私人間効力 ・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・教育文化学部学校教育課程以外の学生については，受講者の人数制限を行うことがある。</p>						
授業に関連するキーワード	憲法	統治機構		象徴			
	戦争の放棄	衆議院の解散		司法権の独立			
	外国人の人権						
成績評価の方法	期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいため、「六法」を用意すること。						
自由記述欄							

科目コード	5100042	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本国憲法C - 自分の憲法観が持てるように -	開講学期等	後期	時間割	木3・4		
授業科目名英字	The Constitution of Japan C						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	法律を考えるA・B		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10～5:40		【場所】	西台研究室(3-328)		
授業の目的				授業の到達目標			
自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット(初期化=パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること)するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。				(1) 憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか? 主要な問題を取り上げて、批判する。 (2) たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。			
カリキュラム上の位置付け	マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 【進行予定と進め方】 1. 学問とは何か 2. 憲法の名宛人 3. 基本的人権と「法律の留保」 4. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈 5. 自由と平等の関係 6. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的 7. 選挙と「法の下での平等」 8. 政教分離のあり方 9. 三権分立 10. 衆議院の解散 11. 地方自治を殺す憲法解釈						
授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治				
	衆議院の解散	法治主義	官僚主権				
	信教の自由						
成績評価の方法	7月中旬の一回の試験で評価する。但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参	『日本国憲法原論』	西台満	高文堂出版社	平成15年		
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は、大学付属図書館の開架に約5冊ある。						
自由記述欄	質問を歓迎する。						

科目コード	5100101			単位	2	時間数	
授業科目名	日本と諸外国の政治 B - 現代日本政治 -			開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	modern Japanese politics						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	政策科学	3 - 332	2604				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11時から12時		【場所】	3 - 332		
授業の目的				授業の到達目標			
1. 戦後日本政治の変容を理解する。 2. 現代日本の内閣、政党の役割を理解する。 3. 情報過多社会において、自分なりの観点を持つ。				戦後日本政治の流れを把握することを通して、社会科学の領域である政治学の基本を習得する。			
カリキュラム上の位置付け	社会科学の基本の習得						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 戦後日本政治の枠組み：議院内閣制。イギリスの議院内閣制との比較。 2. 55年体制の形成。 3. 自由民主党一党優位体制。 4. 高度経済成長の時代。 5. 新保守主義の時代。 6. 非自民連立政権の誕生。 7. 政界再編から小泉政権までの政治過程。 8. 2009年の政権交代とその後。 9. 首相のリーダーシップ。						
授業に関連するキーワード	議院内閣制	55年体制		自民党一党優位体制			
	高度経済成長	首相のリーダーシップ		政権交代			
	構造改革	政治主導		世論			
成績評価の方法	試験						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『戦後政治史 第三版』		石川真澄他	岩波新書	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100121			単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と家族B - 家族社会学の基礎 -			開講学期等	後期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Society and Family B: the Basis of Family Sociology						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石 沢 真 貴	政策科学	教文3-331	018-889-2616				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜14:30～16:00		【場所】	教文3-331		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。</p>				<p>家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。</p>			
カリキュラム上の位置付け	社会科学視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に考察しつつ講義する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 家族に関する法の近年の動向 6 近代社会と「近代家族」 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 女性と労働 15 現代家族のゆくえ 						
授業に関連するキーワード	家族	近代		社会学			
	社会制度	ジェンダー					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内の小レポート等の提出物を総合的な評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。 						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は使用しない。 ・ 必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。 						
自由記述欄							

科目コード	5110050			単位	2	時間数	30
授業科目名	心理学 A - 現代心理学の課題 -			開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	PsychologyIIA - Introduction to Psychology-						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	心理学I			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
清水貴裕	教育心理学講	教5-405	2539	宮野素子	教育実践講座	教5-505	2542
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜12時から14時		【場所】	清水研究室（5-405）		
授業の目的				授業の到達目標			
本講義では、最近のトピックも交えながら心理学各領域の理論や研究知見について学び、心理学的な考え方について理解するとともに、「こころ」とは何かについて考察することを目的とします。				1. 人間関係や自己に関する心理学的な知見や理論を理解し、説明できるようになること。 2. 人間行動について心理学的な観点から考察し、自分なりに理論立てて説明できるようになること。			
カリキュラム上の位置付け	認定心理士資格取得のための必修科目						
授業の概要と進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1. オリエンテーション・心理学とは 第1部 他者とのかかわり（認知、社会心理学領域） 2. 人は他者をどう捉えるか 3. 人に魅力を感じるとき 4. 自分を他者に見せること 第2部 「自己」についてのとらえ方（人格、発達心理学領域） 5. 「性格」って何だろう？（1） 6. 性格と自己認知（2） 7. 社会性の発達（1）自己の発達 8. 社会性の発達（2）ソーシャルスキル 第3部 人間関係が自己に及ぼす影響（認知、社会、健康心理学領域） 9. 人間関係と記憶 10. 態度と態度変容 11. ストレスとソーシャルサポート 第4部 心の健康と心理療法（臨床心理学領域） 12. 心の問題への理解 13. 心理療法の考え方（1）精神分析療法 14. 心理療法の考え方（2）行動療法 15. 心理療法の考え方（3）来談者中心療法						
授業に関連するキーワード	社会心理学	認知心理学		発達心理学			
	臨床心理学	人格心理学		健康心理学			
成績評価の方法	試験と授業への積極性の総点で60点以上を合格とします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しません。参考書は授業で適宜紹介します。						
自由記述欄							

科目コード	5110051	単位	2	時間数	30		
授業科目名	心理学 B - 現代心理学の課題 -	開講学期等	後期	時間割	水5・6		
授業科目名英字	Psychology IIB						
備考	授業の形式		講義・実習・学生	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	心理学I	履修する際に前提とする授業科目	特になし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
北島正人	教育文化学部	教育文化学部5号館205-2	018-889-2693	柴田 健	教育文化学部	教育文化学部5号館301	018-889-2673
オフィスアワー	【曜日及び時間】	要 事前予約		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
心理学各領域の基礎的な理論や考え方を臨床心理学の視点を通して考えることにより、こころに対する理解を深めることを目的とします。				次の2つを到達目標とします。 (1)心理学の各領域の基礎的な理論や考え方を理解し、それを臨床心理学と関連づけて説明できる。 (2)日常生活で起こっていることを、授業で取り上げたトピックの範囲で心理学的な観点から考察し、理論立てて説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	心理学を学ぶことは、人間の活動についてさまざまな観点から理解することにつながります。何らかの対人的なサービスに携わるものにとっての基礎教育となります。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>本授業は2名の教員によって行われます。前半部分では、知覚・認知・動機づけ・感情・発達といった心理学の理論や社会学などの理論と臨床心理学との関連について論じます(柴田)。後半部分では発達・人格理論・心理アセスメント・心理療法についてテキスト上の事例を参考にしながら論じます(北島)。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：心理学の中の臨床心理学 2. 知覚・感覚の心理学：我々のものの見方について 3. 学習・記憶の心理学：行動療法入門 4. 認知・思考の心理学：認知療法入門 5. 感情・動機づけの心理学1：感情心理学の世界 6. 感情・動機づけの心理学2：その臨床的応用について 7. 社会心理学1：コミュニケーションとは何か？ 8. 社会心理学2：コミュニティ心理学入門 9. 犯罪と非行：幼少期の問題とその後の表現形 10. パーソナリティの心理学1：心理援助の基礎(人格理論) 11. パーソナリティの心理学2：心理援助の基礎(発達理論) 12. パーソナリティの心理学3：対象理解のための心理アセスメント 13. 臨床心理学と精神医学：心理療法 - かかわるということ - 14. 教育心理学：教育・生活の中での臨床心理学 15. まとめ・討論 16. テスト 						
授業に関連するキーワード	臨床心理学	心理援助	心理アセスメント				
	心理療法	発達理論	人格理論				
成績評価の方法	出席30%、講義・討論への積極的参加20%、テスト50%を評価基準とします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
		『心とかかわる臨床心理第2版：基礎・実験・方法』	川瀬正裕他	ナカニシヤ出版	2006		
		『子ども おとな 社会 - 子どものこころを支える教』	高田知恵子 編著	北樹出版	2010		
教科書・参考書等に関する記述欄	上記の2冊のテキストを用い、補足説明のためにその都度資料を配付します。						
自由記述欄							

科目コード	5110070	単位	2	時間数	30		
授業科目名	人間関係論 - 社会の中での私 -	開講学期等	後期	時間割	木5・6		
授業科目名英字	Human Relations						
備考	30名以内	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択		
		受講対象学生	全学部・1～2年生				
内容的に密接に関係する授業科目	人間関係論	履修する際に前提とする授業科目	人間関係論 の受講者を対象とした科目である				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木久長	医学部	C-115	6506				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日15:00-15:30		【場所】	C-115		
授業の目的			授業の到達目標				
<p>集団や社会の中での自分について考え、様々な社会的事象に対する意見を形成して発表することができるようにする。</p>			<p>1. 人間関係に関するテーマについて、自分の考えをまとめることができる 2. 自分の考えを伝え、相手の考えを受けとめることができるようになる 3. 個人と社会の関係についての基礎的理論を理解する</p>				
カリキュラム上の位置付け	社会や集団という視点から人間関係を考え、話し合いを通して意見をまとめていくプロセスを体験的に学習する科目である						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】（平成23年度の課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自己紹介の仕方 * 家族は本当に必要なのか？ * 友人は本当に必要なのか？ * 幸せとは何か？ * いのちよりも大切なものはあるか？ * 好意をより効果的に相手に伝える方法 * 秋田の課題は何か * 少子高齢社会は克服できるか * 世界の中での日本の課題は何か * 「生きる力」とは何か * グループ活動（課題設定、検討、プレゼンテーション） <p>【進行予定と進め方】 毎回の授業は、原則として次のような流れで行われる 講義30分、ペアワーク30分、全体討論30分</p>						
授業に関連するキーワード	社会心理学	ソーシャル・キャピタル		討論			
	意見交換						
成績評価の方法	発表とレポートで評価する 特別な理由がない限り欠席は認めない						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特になし参考書等は授業中に紹介する						
自由記述欄							

科目コード	5110081	単位	2	時間数	30
授業科目名	文学論B - 教養読書基礎講義 -	開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Lecture on Literature B:Lecture on liberal reading				
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択
	受講対象学生		全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし		履修する際に前提とする授業科目	特になし	
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
成田 雅樹	教育文化学	教3 - 139	2531		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日8:50～12:00 火水金曜日16:	【場所】	教育文化学部 3 - 139 (電話: 889 -	
授業の目的			授業の到達目標		
(1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 (2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。			(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 (2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論述することができる。 (3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論述することができる。		
カリキュラム上の位置付け	目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。				
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 翻案(映画)と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。 【進行予定と進め方】 1(10/5)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」) 2(10/12)～4(10/26)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較) 5(11/2)～6(11/9)回...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロロ」 「屋敷」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較) 7(11/16)～8(11/30)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較) 9(12/7)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較) 10(12/14)～11(12/21)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較) 12(1/11)～13(1/25)回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較) 14(2/1)～15(2/8)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較) 16(2/15)回...試験(レポート) 2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。				
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリ		
	解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴ		
	表層と深層及びメタファーとテーマ				
成績評価の方法	出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合:C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合:B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合:A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合:S。配点は概ね、授業中の取組35点、提出物の内容35点、試験レポートの内容30点とする。追試・再試は行わない。				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『文学理論のプラクティス』	土田知則・青柳悦子	新曜社	2001
	参考書	『日本語の文体・レトリック辞典』	中村明	東京堂出版	2007
教科書・参考書等に関する記述欄	「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。				
自由記述欄	ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。				

科目コード	5110170	単位	2	時間数	16		
授業科目名	芸術と文化 - 世界の音楽と文化 -	開講学期等	後期	時間割	水9・10		
授業科目名英字	Art and Culture II : World Music						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	芸術と文化 I 日本の音楽文化		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
武内 恵美子	音楽教育講座	2565	018-889-2565				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 14:30～16:00		【場所】	教育文化学部2号館 206号室		
授業の目的				授業の到達目標			
現在世界の音楽文化の基準となっている西洋音楽の歴史と、世界の音楽を学ぶことによって、国際的な視野に立った音楽文化の判断ができるようになることを目指す。				世界の代表的な音楽文化の特徴を理解し聞き分けることができるようになる。また音楽文化を優劣なく判断・評価できるようになる。			
カリキュラム上の位置付け	世界中の音楽についての知識を幅広く身に付けることで教養としての音楽と柔軟な姿勢と判断能力を培う。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】						
	【進行予定と進め方】 1. ガイダンス 世界の音楽を学ぶために、西洋音楽史1 古代の音楽 2. 西洋音楽史2 中世・ルネサンスの音楽 3. 西洋音楽史3 バロックの音楽 4. 西洋音楽史4 古典派の音楽 5. 西洋音楽史5 ロマン派の音楽 6. 西洋音楽史6 近代の音楽 7. 西洋音楽史6 現代の音楽 8. 世界の音楽1 インドネシアの音楽 9. 世界の音楽2 インドの音楽 10. 世界の音楽3 アフリカの音楽 11. 世界の音楽4 西アジア・中央アジアの音楽 12. 世界の音楽5 ヨーロッパの音楽 13. 世界の音楽6 オセアニアの音楽 14. 世界の音楽7 アメリカ大陸の音楽 15. 世界の音楽8 東アジアの音楽（含：日本の音楽） 16. 試験 音楽視聴の関係で、終了時刻が数分程度延長する場合があります。						
授業に関連するキーワード	西洋音楽史	民族音楽学		世界の音楽			
	音楽	文化					
成績評価の方法	1. 試験70%、受講姿勢30%により評価。 2. 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁です。 4. 注意をしても受講態度を改めない場合は当日の出席はカウントしません。 5. 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	なし 授業でプリントを配布。						
自由記述欄							

科目コード	5110181	単位	2	時間数	30
授業科目名	芸術と文化 B - 絵画にみる音楽と文学の照応 -	開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Art and Culture IIIB:Common Themes in Arts				
備考	講義は一般教育2-203教室で行います。		授業の形式	講義	必修・選択
			受講対象学生	全学部 1～4年	
内容的に密接に係る授業科目	アジア美術表現論		履修する際に前提とする授業科目		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
猪巻 明	美術教育	教文1-315	2556		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日16:00～18:00		【場所】	教文1-315
授業の目的			授業の到達目標		
<p>芸術の融合（文学，絵画，音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲，交響詩，舞曲，歌劇，楽劇，歌曲，童謡，歌謡曲，邦楽，その他）を比較しながら，作品の時代背景と，画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。</p>			<p>1)近代の西洋音楽が文学（詩，小説，戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2)西洋美術史の中で，イタリアルネサンス（15世紀），フランスロココ王朝時代（18世紀），フランス象徴派・印象派（19世紀），イギリスラファエル前派（19世紀末），ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭），フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3)日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え，その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して，説明できる。 4)近代日本画の中には日本の歌（歌曲，童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみ</p>		
カリキュラム上の位置付け	絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により，一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。				
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 CD，ビデオ等（音楽）拡大投影機，スライド，ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。				
	<p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> レスピーギ「交響詩ポッティチェリの三枚の絵」（春，東方三博士の礼拝，ヴィーナスの誕生） ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩 海」 ストラヴィンスキー「春の祭典」 プーシェ「牧神とシューリンクス」 ラヴェル「タフニスとクロエ」 シャガールが描いたバリ，オペラ座の天井画。タフニスとクロエを描いた画家達 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 ドビュッシー「ベレアスとメリザンド」モリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 R.シュトラウス「サロメ」 モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネサンス・フィレンツェ派の画家達 ドビュッシー「月の光」 フォーレ「月の光」 ラヴェル「草の上」 ホフマン「舟歌」 ラヴェル「夜のガスパール」 ヴァトー「シテール島への船出」 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 ラフマニノフ 交響詩「死の島」 ワーグナーとベックリン，ワーグナーの楽劇と絵画 マラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学，医学，法学」とマラーの第8交響曲 クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 ヴィバルディ「四季」暦絵とブリュゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 ブッチェニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安菜さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 日本の歌と近代日本画作品 山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり，石川さゆり，小林幸子，その他 邦楽の世界，鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」，鍋木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊 				
授業に関連するキーワード	ポッティチェリ		ドビュッシー		ラヴェル
	鈴木春信		シャガール		クリムト
	山本丘人				
成績評価の方法	出席を前提とした，3回のレポート（授業5回につき1回のレポート）の評価100%				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】
	参考書	『象徴主義と世紀末芸術』		種村季弘訳	
	参考書	『ピアズリーと世紀末』		河村錠一郎著	
	参考書	『名画を見る眼』		高階秀爾著	
	参考書	『ルネサンスの光と闇』		高階秀爾著	
	参考書	『美の回廊 ドラクロワからミロまで』		高階秀爾著	
教科書・参考書等に関する記述欄	毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。				
自由記述欄					

科目コード	5110230			単位	2	時間数	30
授業科目名	哲学の世界 - 近現代の哲学 -			開講学期等	後期	時間割	月1・2
授業科目名英字	Philosophy III: Modern Philosophy						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
勝守 真	国際コミュニケーション	教育文化学部3号棟228号室	018-889-2648				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
				"One travels not for the sake of arriving, but for the sake of travel itself" (Goethe).			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 When we wake up in the morning, we realize that the 'reality' we experienced during sleep was actually a dream. Doesn't it follow, then, that the reality we are experiencing now -- including this syllabus and the people reading it -- might also be a dream? In this course, tracing the history of modern Western philosophy, we will discuss such topics as subject and object, substance and relation, language and society. The class will be conducted mainly in English.						
	【進行予定と進め方】 For the sake of our health and the environment, we will use air-conditioned heating as little as possible. For this purpose, we may finish the course before the end of the semester (before it becomes very cold) after having some make-up sessions in advance.						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	試験（論述式、英語による解答を含む）						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『図解雑学哲学』		貫成人	ナツメ社		
	参考書	『Sophie's World』		Gaarder	Berkley		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110290			単位	1	時間数	
授業科目名	人権と共生 - 男女共生論 -			開講学期等	後期前半	時間割	木3・4
授業科目名英字	Human Rights III:Exploratory Gender Issues						
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択必修
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	ジェンダー論			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
望月 一枝	教科教育	教文1-206	2552				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金 7,8時限		【場所】	教文1-206		
授業の目的				授業の到達目標			
友人関係や恋愛関係をジェンダーの視点で見直し、自らの恋愛観・人間観・世界観を構築する。				男女が共に生きるためにジェンダー・センシティブな視点を獲得する。性と生の問題を社会や歴史との関係で考えることができる。			
カリキュラム上の位置付け	共生を考えるうえで、基礎的・基本的な教養として位置づけられる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 【進行予定と進め方】 1. 学生の友人関係・恋愛などにおけるコミュニケーションの特徴 2. デートDV防止教育の意義 3. 恋愛観を振り返る 4. カップル単位の恋愛の問題性 5. グレーゾーンの問題 6. 加害者の論理 7. シングル単位の恋愛像 8. エンパワメントな恋愛						
授業に関連するキーワード	ドメスティックバイオレンス		恋愛		セクシュアリティ		
	ジェンダー		セクシャルハラスメント		優性思想		
成績評価の方法	発表(40点)、レポート(60点)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『デートDVと恋愛』		伊田広行	大月書店	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110300			単位	1	時間数	15
授業科目名	人権と共生 - ボランティア活動論 -			開講学期等	後期後半	時間割	水5・6
授業科目名英字	Human Rights IV:lecture on Volunteer Activities						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟 1 階事務室内	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
学生がボランティア活動を通じて地域社会の課題に積極的に取り組める基礎を養成する。				ボランティア活動の意義と必要性を理解し、自らもその活動に参加するという行動意欲を惹起する。			
カリキュラム上の位置付け	社会の一員として、共同で社会を支えるための基本的考え方、具体的行動喚起を促す科目として重要な位置付けである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>県内外のボランティア活動団体の現状と課題、そして期待について、県内のボランティア・NPOの実践者から率直に提案していただく。授業担当者が決まり次第掲示により周知する。 詳細については、決定次第掲示するので、掲示に注意してください。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>参考までに平成23年度に実施したものを掲載します。</p> <p>第1回 ボランティア・NPO活動とは 第2回 災害時のボランティア活動 第3回 学校に行かない子ども達を支えるボランティア活動 第4回 ボランティア活動からみえるもの 第5回 悲しみに向き合う～喪失から生きる希望へ～ 第6回 地域で子どもの安全と安心を守るボランティア活動 第7回 生涯学習からボランティア活動へ 第8回 ボランティアという生き方を考える</p>						
授業に関連するキーワード	ボランティア		社会貢献		NGO		
	NPO		いのち				
成績評価の方法	毎回授業終了後に提出するレポートによる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特に使用しない。						
自由記述欄							

科目コード	5110320		単位	2	時間数	30	
授業科目名	多文化コミュニケーション入門 - 他者の文化を発見		開講学期等	後期	時間割	月3・4	
授業科目名英字	Invitation to Multicultural Communication II						
備考	40名以内。人数が多い場合、課題により選考する。受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1・2(3・4)年		
内容的に密接に係る授業科目	「多文化コミュニケーション入門II」「日本文化入門I/II」「多文化間交流論I/II」「日本事情I/II」			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
牲川波都季	国際交流センター	般1-2階	018-889-2865				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日16:10-17:40		【場所】	研究室(般1-2階)		
授業の目的				授業の到達目標			
この授業では、身近な他者が生きている「社会」とその社会の「文化」について考察することで、「社会」と「文化」の多様性・変容性・曖昧さについて認識する。その認識に至る鍵は、多様な背景を持つ他者(留学生や他の学部・学年の学生)との、さらには自分自身とのことばによるコミュニケーションであり、自他に対し自分の思考を積極的に表現することが求められる。その結果、他者との質の高い関係づくりが達成されよう。				1) 他者の生きる「社会」と「文化」について、深い理解を得る。 2) 「多文化コミュニケーション」の方法を体得する。 3) コミュニケーションすること、言語化することの意義を知る。			
カリキュラム上の位置付け	ここでは、多様な背景を持つ留学生や日本人学生が相互にコミュニケーションし合う。その過程で、自他とのコミュニケーションに基づき、いかに思考を明確化していくか、その方法が体得できる(学問の方法)。また、各受講生はそれぞれの「社会」「文化」定義と、他者の生きる「社会」とその「文化」を、新たに発見していくことができる(学問の進展)。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 基本的には、留学生や日本人学生によるグループ・ディスカッションと、それに基づく課題の提出や発表からなるクラス。自らの思考の表現化が繰り返し課される授業であり、意欲的な受講生を望む。また今年度より、学期開始当初に教科書を読み感想文を書くという活動を新たに加える。これによりこのクラスの考え方や進め方を共有したい。ディスカッションとレポートの内容は、グループメンバーそれぞれを知ることを目指すものとなる予定だが、詳細な内容は、受講生の顔触れが決まったあと決定する。						
	【進行予定と進め方】(受講生の顔触れが決まってから最終決定する) 1) オリエンテーション(受講希望者は必ず出席すること) 2) 教科書についての感想提出と講論 3) グループ作り 4) 今学期のトピックの決定 5) グループディスカッション 1-1 6) グループディスカッション 1-2 7) 下書き1の読み合わせ 8) 下書き1の読み合わせ 9) グループディスカッション 2-1 10) グループディスカッション 2-2 11) グループディスカッション 2-3 12) 下書き2の読み合わせ 13) 下書き2の読み合わせ 14) 最終レポートの提出 15) 相互自己評価会						
授業に関連するキーワード	多文化コミュニケーション		グループ・ディスカッション		社会		
	相互自己評価		表現化				
成績評価の方法	成績評価(合計100ポイント) 1) 積極的な授業参加 30ポイント(目標1・2・3) 2) 提出物(締切・分量厳守で満点、遅れ・不足に応じて減点) 70ポイント(目標1・3) 合否判定基準 1) 上記の合計60ポイント以上で合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『わたしを語ることを求めて』		牲川波都季・細川英雄	三省堂	2004	
教科書・参考書等に関する記述欄	第一回目のオリエンテーションのあとで生協で購入すること。第二回目の授業で、教科書の感想文を提出してもらう。						
自由記述欄	受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。人数が多すぎる場合、第一回目の授業で課題を出し選抜する。やさしい英語による文化交流・日本文化論・日本社会論に興味がある者には、本授業ではなく、多文化交流論I/II、I日本文化入門I/II・日本社会入門						

科目コード	5110350	単位	2	時間数	
授業科目名	多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実践 -	開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Putting Cross-Cultural Communication into Practice				
備考	一部集中講義，留学生も合わせて30名程度 通常の講義と11月の合宿の両方に参加できる学生のみ	授業の形式	演習・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	平成23年度入学者のみ		
内容的に密接に関係する授業科目	他の国際交流関連科目	履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
宮本律子	教育文化学部	教3-229	018-889-2688		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:30-18:00		【場所】	宮本研究室（教3-229）
	授業の目的		授業の到達目標		
	異(こと)なる文化(ぶんか)背景(はいけい)を持(も)つ相手(あいて)とのコミュニケーションの仕方(しかた)を模索(もさく)する		(1) 色々な文化的(ぶんかてき)背景(はいけい)を持(も)つ者(もの) (異(こと)なる出身地(しゅっしんち)、異(こと)なる学部(がくぶ)、異性(いせい)など) が真(しん)に深(ふか)い交流(こうりゅう)を行(おこな)う (2) 自分(じぶん)の思考(しこう)・行動(こうどう)様式(ようしき)を客観視(きゃっかん)する		
カリキュラム上の位置付け					
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 この授業は、前半（授業7回）と後半（11月後半）に実施する2泊3日の北東北三大学合同合宿と合宿後の授業2コマ）からなる。</p> <p>【進行予定と進め方】 【前半】 10月第1週～11月第3週 授業では、学内の多様（たよう）な背景（はいけい）をもつ学生同士で、コミュニケーションゲームや討論（とうろん）などのグループ活動を通して、交流（こうりゅう）を深（ふか）める。 【後半】 11月後半におこなう合宿および12月3日、10日（授業） 合宿（がっしゅく）では、興味のあるテーマについて、共同（きょうどう）で作品（さくひん）を完成（かんせい）させるなどの作業をおこなう。 例（たと）えば、「私の幸せ」などのトピックに関するビデオ作品または電子紙芝居作成制作などが考（かんが）えられる。発表はおもにPowerPointを使う。</p> <p>この授業（じゅぎょう）は「行動型（こうどうがた）」授業（じゅぎょう）であり、受け身（うけみ）の態度（たいど）では単位（たんい）は認定（にんてい）しない。 特（とく）にグループ活動（かっどう）が多いので、無断（むだん）欠席（けっせき）、締切（しめきり）を守（まも）らないなどの態度（たいど）は、グループによる成績（せいせき）評価（ひょうか）に影響（えいきょう）する。 11月の多文化合宿に参加しなければならぬが、達成感（たっせいかん）を得（え）られることは保障（ほしょう）する。 秋田大学の他学部の学生や岩手大学、弘前大学の学生（留学生も含む）など、色々な人と友達になれること請（う）け合（あ）います！</p>				
授業に関連するキーワード	多文化交流	異文化交流	協同作業		
	ピア・ラーニング				
成績評価の方法	11月に実施する合宿に参加できる学生のみが対象となる 授業参加度50%、発表3回（授業中2回と合宿で1回）30%、最終個人レポート20%				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄	特に定めなし				
自由記述欄					

科目コード	5110352	単位	2	時間数	
授業科目名	多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実	開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Putting Cross-Cultural Communication into Practice				
備考	一部集中講義，留学生も合わせて30名程度 通常の講義と11月の合宿の両方に参加できる学生のみ	授業の形式	演習・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	平成23年度入学者のみ		
内容的に密接に関係する授業科目	他の国際交流関連科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし	
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
宮本律子	教育文化学部	教3-229	018-889-2688		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:30-18:00		【場所】	宮本研究室（教3-229）
	授業の目的		授業の到達目標		
	異(こと)なる文化(ぶんか)背景(はいけい)を持(も)つ相手(あいて)とのコミュニケーションの仕方(しかた)を模索(もさく)する		(1) 色々な文化的(ぶんかてき)背景(はいけい)を持(も)つ者(もの) (異(こと)なる出身地(しゅっしんち)、異(こと)なる学部(がくぶ)、異性(いせい)など)が真(しん)に深(ふか)い交流(こうりゅう)を行(おこな)う (2) 自分(じぶん)の思考(しこう)・行動(こうどう)様式(ようしき)を客観視(きゃっかん)する		
カリキュラム上の位置付け					
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 この授業は、前半（授業7回）と後半（11月後半）に実施する2泊3日の北東北三大学合同合宿と合宿後の授業2コマ）からなる。</p> <p>【進行予定と進め方】 【前半】 10月第1週～11月第3週 授業では、学内の多様（たよう）な背景（はいけい）をもつ学生同士で、コミュニケーションゲームや討論（とうろん）などのグループ活動を通して、交流（こうりゅう）を深（ふか）める。 【後半】 11月後半におこなう合宿および12月3日、10日（授業） 合宿（がっしゅく）では、興味のあるテーマについて、共同（きょうどう）で作品（さくひん）を完成（かんせい）させるなどの作業をおこなう。 例（たと）えば、「私の幸せ」などのトピックに関するビデオ作品または電子紙芝居作成制作などが考（かんが）えられる。発表はおもにPowerPointを使う。</p> <p>この授業（じゅぎょう）は「行動型（こうどうがた）」授業（じゅぎょう）であり、受け身（うけみ）の態度（たいど）では単位（たんい）は認定（にんてい）しない。 特（とく）にグループ活動（かっどう）が多いので、無断（むだん）欠席（けっせき）、締切（しめきり）を守（まも）らないなどの態度（たいど）は、グループによる成績（せいせき）評価（ひょうか）に影響（えいきょう）する。 11月の多文化合宿に参加しなければならぬが、達成感（たっせいかん）を得（え）られることは保障（ほしょう）する。 秋田大学の他学部の学生や岩手大学、弘前大学の学生（留学生も含む）など、色々な人と友達になれること請（う）け合（あ）います！</p>				
授業に関連するキーワード	多文化交流	異文化交流	協同作業		
	ピア・ラーニング				
成績評価の方法	11月に実施する合宿に参加できる学生のみが対象となる 授業参加度50%、発表3回（授業中2回と合宿で1回）30%、最終個人レポート20%				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄	特に定めなし				
自由記述欄					

科目コード	5110370			単位	2	時間数		
授業科目名	日本文化入門 - An Introduction to Japanese			開講学期等	後期後半	時間割	木7~10	
授業科目名英字	An Introduction to Japanese Culture							
備考				授業の形式	講義・実習	必修・選択	選択	
				受講対象学生	留学生・日本人学生			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
F.NISHIDA	International Exchange	般1, 2階	2916					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	WED 16:00-17:00			【場所】	般1, 2階		
授業の目的				授業の到達目標				
This is the course designed for international students who have just started their university life in Akita and Japanese students who are interested in communicating with international students and introducing them to the local culture and society. 本講義は日本語と英語を併用します。				The course is held in order to guide international students into Japanese socio-cultural environment so that they can function comfortably and effectively on and off campus. It is also the purpose of the course that Japanese students become capable of supporting international students in their exploration of Japanese culture and society.				
カリキュラム上の位置付け								
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】							
	This course will provide students with cultural, historical, geographical means of exploring "Akita". Topics examined concern history and phenomenon of Akitan society, religions, arts and crafts, literature. Emphasis will be placed on cultural context in Akitan tradition.							
授業に関連するキーワード	【進行予定と進め方】							
	1. course orientation 2. video session TBA 3. video session: traditional culture 4. tea ceremony workshop 5. project preparation (1) 6. field trip (1): public facilities 7. field trip (2): TBA 8. project preparation (2) 9. field trip (3): Museum 10. project preparation (3) 11. field trip (4): factory visit 12. project preparation (4) 13. field trip (5): TBA 14. Oral presentation 15. Oral presentation							
成績評価の方法	Individual Project: Research & Presentation Practice: Teams of Japanese and int'l students will choose a topic related to daily							
教科書・参考書等	Local culture	Experiential learning			Japanese culture			
教科書・参考書等に関する記述欄	Final grades will be based on attendance, participation, reports, presentations, and projects.							
自由記述欄	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	Attendance 20%, oral presentation 30%, presentation materials 30%, report 20%							
自由記述欄	Maximum participation in the course work by students is expected. 日本人学生の積極的な参加を期待します。							

科目コード	5110390		単位	2	時間数		
授業科目名	日本社会入門		開講学期等	後期	時間割	月3・4	
授業科目名英字	An Introduction to Japanese Society						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	留学生及び日本人学生			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
F.NISHIDA	International Exchange	general ed bldg#1 2F	2916				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	WED 16:00-17:00		【場所】	general ed bldg#1 2F		
授業の目的				授業の到達目標			
This course aims at students' understanding of basic structural features of the Japanese language, which will help their learning in Japanese language courses. They are required to work on a series of short assignments and take the midterm and final examinations. Students should have completed one year of Japanese at the University of Iowa or equivalent prior to taking this course. The course is taught in English and Japanese. 本講義は日本語と英語を併用します。				Upon the completion of this course, students will: -Understand how the Japanese language developed, and what kind of relationship the Japanese language has with other languages. -Have an ability to critically analyze basic ungrammatical or awkward sentences and be able to correct them. - Have a general understanding of how the Japanese language works as a communication system.			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】						
	This sociolinguistics course explores topics such as intercultural communication, language and emotion, language and identity, language and ideology, and language borrowing, using Japanese language as an example. The course will provide students with ample opportunities to address questions concerning Japanese and the students' mother tongues. Students will be encouraged to share their own observations of Japanese language and its speakers in class.						
授業に関連するキーワード	Japanese		Linguistics		Contrastive Linguistics		
	日本語		言語学		対照言語学		
成績評価の方法	Assignments 25% Class presentation 10% Midterm 30% Final Examination 35%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『Introduction to Japanese Linguistics』		Natsuko Tsujimura	Wiley-Blackwell	2006 (2nd)	
	参	『ベーシック現代の日本語学』		日野資成	ひつじ書房	2009	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	平易な英語を用いますので、日本人学生の積極的な参加を期待しております。						

科目コード	5120040		単位	2	時間数	30	
授業科目名	自然環境と資源 B - 地球環境と化学元素 -		開講学期等	後期	時間割	月1・2	
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択必修	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目	特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学I, IIを履修していなくても、学習によって理解できる内容です。			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで		【場所】	教文3-218		
授業の目的				授業の到達目標			
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解				1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。</p> <p>【進行予定と進め方】 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量と機能 9, 微量化学成分の化学分析 10, 水質および大気モニタリング 11, 光と物質の相互作用 12, 大気化学組成とその変遷 13, 地球環境での炭素の存在量とその循環 14, 地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15, 同、(2)酸性雨と硫黄化合物 16, 同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ</p>						
授業に関連するキーワード	地球環境	大気圏		海洋			
	生体	化学元素		必須元素			
	有毒元素						
成績評価の方法	<p>授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。						
自由記述欄							

科目コード	5120061	単位	2	時間数	30		
授業科目名	地球の環境と資源 B - 地層の話 -	開講学期等	後期	時間割	水5・6		
授業科目名英字	Global Environment and Resources IV B: Introduction to Geological Sciences						
備考	なし	授業の形式	講義	必修・選択	選択		
		受講対象学生	全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	とくになし	履修する際に前提とする授業科目	とくになし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
(責)内田 隆	工学資源学部	工資2-B304	889-2652	佐藤時幸	工学資源学部	工資2-G214	889-2371
大場 司	工学資源学部	工資2-G307	889-2374				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 12:00～12:30		【場所】	工資2-B304		
授業の目的				授業の到達目標			
地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。				1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然現象認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに、日常生活のあり方について考察できる。			
カリキュラム上の位置付け	本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが、特別な予備知識を前提しない。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 基礎編 1. ガイダンス 2. 地球の誕生：地球科学の基礎 3. 地層は時計である：地質学的認識の基礎 4. 古生物の進化の記録と地質時代区分は何を根拠にしているか 5. 年代を測る：地質時代はどのように測定されているか 各論編 6. ワンダフルライフ；カンブリア紀の爆発：高等動物大量出現の何が起こったか 7. 大量絶滅の謎：恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したか 8. マグマの働き：火山噴火の正体 9. 火山噴火のタイプ：火山噴火はどのように起こるか 10. 地層の形成と変形、地殻変動：地層のできかたと構造運動 11. 環境変動はなぜ起きる：地球の気候は驚くほど変化する 12. 地球温暖化は本当か？：地球は生きています 13. 将来のエネルギー？メタンハイドレート：エネルギー資源の救世主になるか 総括編 14. プレートテクトニクス：地球表面で進行している基本過程 15. 地下の地層の状態を探る：地下の地層の様子から地史を解釈しエネルギーを探査する 【進行予定と進め方】 詳細については、初回のガイダンスで説明する。						
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）		進化			
	マグマ	火山噴火		地球環境変遷			
	プレートテクトニクス	ハイドレート					
成績評価の方法	出席の状況および期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、毎回の講義に資料を配付する。必要に応じて参考書を紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5120081			単位	1	時間数	15
授業科目名	環境と社会 B - 地域環境とインフラストラクチャー -			開講学期等	後期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2368	日野 智	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2359
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2974				
長谷部薫	工学資源学部	工資1-409	2358	徳重英信	工学資源学部	工資1-412	2367
松富英夫	工学資源学部	工資1-416	2363	荻野俊寛	工学資源学部	工資1-419	2364
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的に整備例について履修する。				1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 【進行予定と進め方】 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中の鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境						
授業に関連するキーワード	社会基盤		社会資本整備の理念		都市と交通		
	建設構造物		建設材料		地盤災害		
	水環境						
成績評価の方法	レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120090			単位	2	時間数	30
授業科目名	ライフサイエンス - 生命の連続性 -			開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Life Science II:Continuity of the Life						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石井照久	教育文化学部	教文4号館309	2681				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16時-18時		【場所】	教文4号館309		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 生命は生命より生じ連続していく。ライフサイエンスのうち、この授業では生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から学ぶことによって、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを理解することを目的とする。 2) ライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを理解することを目的とする。				1) 生命観の歴史の変遷を説明できる。 2) 地球上での生命の歴史を概説できる。 3) 細胞のしくみ、生殖のしくみ、遺伝のしくみを説明できる。 4) 現代の生命科学技術の概略を説明できる。 5) 進化学を理解し、現代人の起源を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	教育文化学部1年で自然環境選修進学希望者、および医学部1年で高校生物未履修者は、それぞれの専門分野のよい導入教育となるのでお勤めである。またその他の人にとっても21世紀に生きるうえで必須となるライフサイエンス(生命科学)関連の常識を解説する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>ライフサイエンスのうち、生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から解説し、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを概説する。またライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを概説する。期末試験は持ち込みなしで行う。ただ出席しているだけでは単位が取得できない科目であり、受講生の主体性を求めるきびしい科目である。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>以下1回目から15回目までの進行予定です。本授業では、教科書を使用しますので教科書をあらかじめ購入して下さい。また授業時に教科書を持参して下さい。授業では教科書の内容すべてを扱うことは無理なので、各自読み進めておいて下さい。授業で扱えない部分も非常に為になるので、ぜひ教科書を購入して読んで下さい。なお各項目の後に教科書以外で各項目に関連する参考図書のうち1冊を記載しましたので参考にして下さい。講義全体の参考図書は参考図書欄を見て下さい。の部分は視聴覚教材を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり「目でみる生物学(三訂版)」 2. 第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり+ 「目でみる生物学(三訂版)」 3. 第1章 生命観の変遷 2) 自然発生説について 「目でみる生物学(三訂版)」 4. 第2章 生命の誕生について その1) 「図説 生物の世界(三訂版)」 5. 第2章 生命の誕生について その2) 「図説 生物の世界(三訂版)」 6. 第3章 生命とは細胞とは 「好きになる生物学」「生物学超入門」 7. 第4章 生命の連続 1) 無性生殖と有性生殖 「遺伝子と夢のバイオ技術」 8. 第4章 生命の連続 2) 生命の連続性 「絵でわかる生命のしくみ」 9. 第4章 生命の連続 3) 遺伝子DNAとRNAとタンパク 「遺伝子時代の基礎知識」 10. 第5章 現代の生命科学技術 1) 人体製造-再生医療- + 11. 第5章 現代の生命科学技術 2) 遺伝子と医療+ 12. 第6章 進化学 1) 用不用説、獲得形質の遺伝説、自然淘汰(自然選択) 13. 第6章 進化学 2) 分子の進化、現在の進化説 「分子進化学への招待」 14. 第7章 現代人のルーツをたどる 「DNAに刻まれたヒトの歴史」 						
授業に関連するキーワード	生命	細胞	連続性				
	遺伝子DNA	生命科学技術	クローン				
	進化						
成績評価の方法	出席率が2/3以上であることを前提とします。毎回出席をとります。そして授業中の課題点(満点10点)と期末試験点(持ち込みなし)(満点90点)の合計が60点以上で合格とします。なお追試は行わないので注意してください。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	教科書	『"生きている"ってどういうこと?生命のしくみを		培風館			
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書:「目でみる生物学(三訂版)」培風館 「遺伝子と夢のバイオ技術」「ゲノムでわかることできること」以上羊土社 「資源化する人体」「遺伝子組み換え動物」「遺伝子組み換え(食物編)」以上現代書館 「分子進化学への招待」「遺伝子時代の基礎知識」「好きになる生物学」						
自由記述欄							

科目コード	5120101			単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンス B			開講学期等	後期前半	時間割	火5・6
授業科目名英字	Life Science IIIB						
備考				授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館312号室	018-889-2590				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時		【場所】	教育文化4号館312号室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ、犯罪捜査にはDNAが欠かせません。このような事象を理解するための基礎として、メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。遺伝学へ興味をもってもらうことが第2の目的です。</p>				<p>1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を説明できる。 3) 簡単な入試問題を解くことができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	教養教育						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 メンデル遺伝の問題を解くことで、遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため、すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので、1回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。</p> <p>【進行予定と進め方】 1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子</p> <p>課題： 一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 伴性遺伝を理解するいろいろな問題</p>						
授業に関連するキーワード	メンデル遺伝	DNA		タンパク質			
	形質	減数分裂		性染色体			
	二倍体						
成績評価の方法	課題，試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120161		単位	2	時間数	30	
授業科目名	コンピュータの科学 B - コンピュータ科学の基礎 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Computer Science IB:Fundamentals on Computer Science						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		コンピュータリテラシーにかかわる基礎科目（情報処理の技法、情報処理入門、情報処理）を履修していることが望ましい。				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木重雄	教育文化学部	教文4 - 4 1 3	018-889-2763				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水 13:30～16:00		【場所】	教文4 - 4 1 3		
授業の目的				授業の到達目標			
コンピュータ内部におけるデータ表現である二進数、および、その処理の仕組みを学ぶ。特にデジタル処理の基礎としてブール代数および論理回路を学ぶ。				情報のデジタル化について説明できる。 データ表現とその処理について説明できる。 論理演算（ブール代数の演算）ができる。 デジタル回路（組合せ回路および順序回路）の記号を理解し、簡単な回路設計ができる。			
カリキュラム上の位置付け	本講義は情報処理技術を習得に重要な、コンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 コンピュータが扱うデータであるデジタル情報について、その性質、および、その処理方法の原理を学習する。最終的に、デジタル情報を扱うハードウェアとしての論理回路の設計方法までを学習する。主に取り上げる内容は、(1)アナログ情報とデジタル情報の違い、(2)2進数の計算、(3)数値以外のデジタル情報、(4)ブール代数、(5)論理回路である。</p> <p>【進行予定と進め方】 授業概要は以下のとおりに進める。 1. ガイダンスと基礎知識（1回） 2. 2進数と情報のデジタル表現（3回） 4. 2進数の計算（3回） 5. ブール代数（4回） 6. 論理回路（4回）</p> <p>全て講義で行い、板書を中心とする。 3, 4, 5の最後に小テストを行う。基本的には教科書に従って行う。 教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。 また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくことと理解が進む。 さらに、総合情報処理センターのウェブサイトから、本授業のページへのリンクが張られているので、こちらも参照してもらいたい。</p>						
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数		デジタル回路			
	データ表現	2の補数表現		浮動小数点数表現（IEEE754）			
	カルノー図	組合せ回路		順序回路			
成績評価の方法	成績評価は3回の試験（所要時間は、各々およそ30分）を合計した点数で行う。Aは80点以上、Bは70点以上80点未満、Cは60点以上70点未満、Dは60点未満とする。ただし、解答に創意工夫が見られるなど、特に優秀な成績を取めた者には、S評価を与えることがある。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『計算機科学の基礎』		八村広三郎	近代科学社		
	参考書	『「コンピュータ概論」情報処理入門コース1』		都倉信樹	岩波書店		
	参考書	『「コンピュータの構成と設計」上・下』		バターソン、ヘネシー	日経BP		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120171	単位	2	時間数	30		
授業科目名	コンピュータの科学 B - グラフとアルゴリズム -	開講学期等	後期	時間割	水5・6		
授業科目名英字	Computer Science IIB:Graph and Algorithm						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学I		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765	2765				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 午後2時30分～午後5時	【場所】	4-412			
授業の目的				授業の到達目標			
<p>グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。</p>				<p>以下の2点を到達目標とする。 1) グラフ理論の基礎事項を理解する。 2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。</p> <p>【進行予定と進め方】 具体的には以下の順に講義を進める。 1) グラフ理論の基礎 1. グラフとはなにか 2. 木・連結性・分割 3. 周遊・線グラフ 4. 被覆・平面グラフ・4色定理 5. 色分け可能性・グラフと行列 6. グラフと群・有向グラフ 2) アルゴリズムへの応用 7. アルゴリズムの基礎 8. アルゴリズムとデータ構造 9. アルゴリズムと木 10. アルゴリズムと有向グラフ 11. アルゴリズムと無向グラフ 12. アルゴリズムとオイラー・ハミルトングラフ 3) まとめ 13. まとめと試験対策</p>						
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論	アルゴリズム				
成績評価の方法	レポート(20%)，試験(80%) 総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	オリジナルの講義冊子のファイルをa・netの「キャビネット」に置いておくので、受講希望者はあらかじめダウンロードして印刷した状態で持参すること。(「学生」フォルダ内の「授業関係資料」フォルダ内の「上田晴彦」フォルダで、対応するファイルをダウンロードしてください。)						
自由記述欄	講義冊子がないと、授業を受講する際に大きな支障となります。必ず事前にプリントアウトして持参してください。						

科目コード	5120180	単位	2	時間数	30
授業科目名	生活の科学 - 住まいの環境学 -	開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Family and Consumer Science II: Building Environmental Science				
備考	授業の形式		講義・演習・実験	必修・選択	選択
	受講対象学生		全学部 1～4年		
内容的に密接に係る授業科目	教育文化学部の学生は、西川担当の専門科目「住生活* *論」、「住生活実験・実習I・II」。工学資源・医学部の学生は、特になし。		履修する際に前提とする授業科目	なし	
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
西川 竜二	教文・生活者科学講座	教1-302	0188892691		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜15:00～16:00		【場所】	担当教員の教員室(教1-302)
授業の目的			授業の到達目標		
「人にやさしい住環境を、地域や地球にやさしい方法でつくる」ことを科学的に考える。住環境は、主に暖かさ・涼しさを対象とする。自分たちの身近な住まいから環境問題の解決を考え実践していく見方・考え方を養う。			1) 「人にやさしい住環境」、それを「地域や地球にやさしい方法でつくる」について説明できる。例えば、人に健康・快適な住環境の条件とは? 今日の住宅の冷暖房照明技術等の発展が健康にもたらした恩恵。一方、現在の人工的環境での生活が健康に与える悪影響。目指すべき住環境とはどのようなものか? 住生活様式とエネルギー消費・環境負荷の関係 地域の伝統民家や現代の環境共生建築と呼ばれる建物に備わる、太陽の光・熱など自然のポテンシャルを利用して住環境を調整する方法 住宅断熱の個人・社会的な意義 秋田や東北地方の住宅熱環境の特徴、特に高齢社会における健康課題。 2) 上記1)を踏まえ、自分の身近な住環境に関心を持ち、その現状を評価し、具体的な改善方法を考え・実践できる。		
カリキュラム上の位置付け	秋田大学では基本的目標の1つに『「環境」と「共生」を課題とした独創的な研究活動を行う』ことを掲げています。本授業では、誰にとっても身近な住生活における「環境」と「共生」に関する問題について、科学的な見方・考え方を学びます。これにより、環境共生に貢献する研究や活動を行える人材に育つための素地を養います。また、目的・主題別としては、「学問の進展」を重視。				
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 授業は、プリント・スライドによる講義、関連の演習・実験等で進行。序盤は、人に快適な環境とは何かについて、人の快適性の生理心理、現代の住環境と健康課題、現代の住生活と環境負荷、地域の伝統的な住まい、を通して見方・考え方を養います。中盤に、学生参加型の住居模型実験で環境共生住宅の工夫とそれがもたらす快適環境を確かめ、その工夫の原理や実践方法を後半の授業で学びます。体験と結びつけた生活実践につながる知識の習得をめざして、授業中の実験・演習や自宅の住環境の測定調査の課題、実験結果のグループ考察・発表等を取り入れて体験・参加的に学びます。事前の専門的な知識は不要(文系OK)です。</p> <p>【進行予定と進め方】内容・順番は以下を予定。 【01 ガイダンス】 シラバスの説明/住環境学とは/授業全体の概要と問題提起 【02～03 建築の形態・機能】 植物の地域性・多様性(植生気候図)/伝統建築の地域性・多様性(民家気候図)/伝統建築文化と現代建築文明(パッシブ型技術とアクティブ型技術)/照暖冷房技術の発展と近現代建築の形態の変遷 【04 秋田の伝統民家の見学】 旧金子家住宅の見学(秋田市大町);手形から徒歩・自転車、やむを得ず欠席した人は個人で見学) 【05 秋田の伝統民家の考察】 見聞したことでの発表・解説/伝統的な住宅・住まい方の現代への適応可能性 【06～07 冬暖かく夏涼しい住環境づくり(学生参加型の住居模型実験/VTR視聴)】 少人数のグループで実施。良好な住環境を形成する建築的工夫(素材や形態の知恵・技術)の効果を住居模型を用いて実験。受講生自ら手と頭を動かして体験的に納得する。/実験の順番待ちの学生は、伝統民家の夏涼しい家づくりの技術に関するVTR視聴。 【08～09 模型実験の考察】 実験結果の理論考察による理解と実践例。受講生のグループ討論と発表に対する教員の解説で進める。 【10 冬季の住宅熱環境の現状と高齢社会の課題】 冬季の住宅内温度差”ヒートショック”の危険/高齢者の温熱生理・心理の特徴/東北の住宅における冬季の熱環境の実態と健康課題</p> <p>----- * 冬季休業中の課題「自宅の冬季における熱環境調査」(配付の液晶温度計により温度測定し、住宅熱環境の健康・快適性を診断)</p> <p>----- 【11～15 住まいの断熱・蓄熱】 断熱の価値/断熱住宅の建て方(外断熱と内断熱)/パッシブソーラーハウス/断熱性能を活かした夏の住まい/住宅の断熱・蓄熱構造による室温変化の模型実験</p>				
授業に関連するキーワード	建築環境	住環境と健康・快適	住生活と省エネ・環境負荷		
	地域・秋田の伝統住居	環境共生建築の技術(住まい・設備)	環境共生型の住まい方		
	冬季の住宅暖房環境の現状と課題				
成績評価の方法	1)授業中の課題(要約・意見感想・演習など、一部宿題の場合もあり)(60点、到達目標1)、2)伝統民家の見学について的小レポート(10点、到達目標1・2)、3)住居模型実験について的小レポート(10点、到達目標1)、4)冬季休業中の課題レポート「自宅の冬季における熱環境調査」(20%、到達目標2)成績は100点満点に換算し、S:90～100、A:80～89、B:70～79、C:60～70、D:60未満とし、Dを不合格とする。注意:上記1)は未提出が5回の時点で不合格とする。上記2)3)4)の全ての提出を成績評価の必要条件とする。				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考	『「住まいの中の自然」「エコハウジングの勧め」』	小玉祐一郎		
	参考	『環境建築読本』	日本建築家協会編		
	参考	『シリーズ「土曜建築学校」1～3巻』	建築資料研究所		
	参考	『百の知恵双書』の住居関連の巻02,08,12,17』		農文協	
教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書は使用しない。プリント配付。・参考書は、大学図書館に蔵書のあるものを例示。				
自由記述欄	本授業は実験と考察の発表や見学など、学生参加型の内容・方法があります。また、冬休み中に自宅の環境調査の宿題が出ます。見学・実験・調査が良かったという受講生も居ますが、課題等が多かったという受講生も居ます。住環境に興味があり、積極的に参加できる学生が受講して下さい。				

科目コード	5130030	単位	2	時間数	30		
授業科目名	食と健康 - 栄養の分子生物学 -	開講学期等	後期	時間割	水5・6		
授業科目名英字	Diet and Health: Molecular Biology of Nutrition						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池本 敦	教育文化学部	教文1-204	2553				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	教文1-204・2553		【場所】	教文1-204 (電話：889-2553)		
授業の目的				授業の到達目標			
栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。				1) 栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。2) 栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。3) 代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。4) 食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必須な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>1～3回は、総論として生命科学領域における栄養学の背景と分子栄養学の目的について概説する。また、分子栄養学の理解に必要な基礎知識（有機化学、生化学、分子生物学）を扱う。4～12回は、各論として、それぞれの栄養素を取り上げ、その生体内での役割と健康との関係を解説する。13～16回は、再び総論に戻り、食と生活習慣病や肥満との関係、遺伝子組換え食品について扱う。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>原則として1回の授業でそれぞれ下記の項目1つを講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的 2) 総論：生体を構成する物質と細胞 3) 総論：分子栄養学とヒトの遺伝子 4) グルコース代謝と糖尿病 5) タンパク質・アミノ酸と生体機能 6) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（1） 7) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（2） 8) コレステロール代謝と健康 9) 抗酸化物質やビタミンC・Eと活性酸素・フリーラジカル 10) -カロチン・ビタミンAと視覚機能・遺伝子発現 11) ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達 12) 必須無機元素の生体内機能 13) 生活習慣病の遺伝子と栄養 14) 肥満と遺伝子 15) 遺伝子組換え食品 16) 期末試験 						
授業に関連するキーワード	栄養	食品	生化学				
	分子生物学	遺伝子	生活習慣病				
成績評価の方法	出席票による授業要約30%、試験50%、レポート20%で評価する。ただし、出席率が2/3以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することによりとる。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5130041	単位	1	時間数	15		
授業科目名	医学と健康 B - 健康と疾患の基礎知識 -	開講学期等	後期前半	時間割	木7・8		
授業科目名英字	Medical Science and Health IB:Health and Disease						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
田中正光	医学部		6077	今井由美子	医学部		6065
石井 聡	医学部		6089				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜 7 . 8 時限		【場所】	医学部基礎棟4階分子生化学講座研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ .				(1) 腫瘍と正常の違いの基礎知識について理解する。 (2) 薬理学の基礎知識について理解する。 (3) 健康の維持と疾患の発症との両方に関係する免疫について理解する。			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6) 本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する .						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 薬理、免疫、腫瘍に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。						
	【進行予定と進め方】 予定 10月 4日 教養の薬理学 (担当：今井由美子) 10月 11日 腫瘍学入門 (担当：田中正光) 10月 18日 腫瘍学入門 (担当：田中正光) 10月 25日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 11月 1日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 11月 8日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 11月 15日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 11月 22日 教養の薬理学 (担当：今井由美子)						
授業に関連するキーワード	腫瘍	薬理		免疫			
	健康						
成績評価の方法	出席状況(2/3以上)とレポート(提出必須)による評価 .						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない						
自由記述欄							

科目コード	5130051		単位	1	時間数	15																	
授業科目名	医学と健康 B - 子供の発達と健康 -		開講学期等	後期後半	時間割	火5・6																	
授業科目名英字	Medical Science and Health II A/B: Development and Health of Childhood																						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択																		
	受講対象学生		全学部 1～4年																				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目																						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】																
高橋 勉	医学部・小児科		018-884-6159	新井浩和	医学部・小児科		018-884-6159																
矢野道広	医学部・小児科		018-884-6159	高橋郁子	医学部・小児科		018-884-6159																
田村啓成	医学部・小児科		018-884-6159	吉野裕顕	医学部・小児外科		018-884-6143																
大野忠行	大野小児科医院		018-832-5301	小松真紀	秋田組合総合病院・小児		018-880-3000																
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜～金曜 13:00～17:00		【場所】	医学部小児科医局																		
授業の目的				授業の到達目標																			
1) 小児の正常な身体的・心理的成長発達を理解できるようになる。 2) 小児の成長発達を促すためにどんなことが必要なのかを理解できるようになる。				1) 小児の正常な身体的・心理的成長発達過程について、基本的な知識を説明できるようになる。 2) 小児の成長発達を促す具体的な方法を説明できるようになる。																			
カリキュラム上の位置付け	子どもの発達について、様々な観点から理解することを目的とする。																						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 小児は決して「小さな成人」ではなく、出生前から出生後、そして成人に至るまでのそれぞれの段階で大きな特徴が存在する。本講座では、各小児期の身体的、精神的な特徴を概説し、特徴的な疾患を含めて小児期を立体的に理解出来るよう説明する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 総論</td> <td>高橋 勉</td> </tr> <tr> <td>第2回 胎児から新生児</td> <td>新井浩和</td> </tr> <tr> <td>第3回 乳児期</td> <td>田村啓成</td> </tr> <tr> <td>第4回 幼児期</td> <td>小松真紀</td> </tr> <tr> <td>第5回 学童期</td> <td>大野忠行</td> </tr> <tr> <td>第6回 思春期</td> <td>高橋郁子</td> </tr> <tr> <td>第7回 子どもの健康と外科</td> <td>吉野裕顕</td> </tr> <tr> <td>第8回 小児の成長と小児がん</td> <td>矢野道広</td> </tr> </table>							第1回 総論	高橋 勉	第2回 胎児から新生児	新井浩和	第3回 乳児期	田村啓成	第4回 幼児期	小松真紀	第5回 学童期	大野忠行	第6回 思春期	高橋郁子	第7回 子どもの健康と外科	吉野裕顕	第8回 小児の成長と小児がん	矢野道広
第1回 総論	高橋 勉																						
第2回 胎児から新生児	新井浩和																						
第3回 乳児期	田村啓成																						
第4回 幼児期	小松真紀																						
第5回 学童期	大野忠行																						
第6回 思春期	高橋郁子																						
第7回 子どもの健康と外科	吉野裕顕																						
第8回 小児の成長と小児がん	矢野道広																						
授業に関連するキーワード	小児	発達																					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 欠席3回の時点で評価はDとする。 8回の講義のうち、特に興味を持った講義1つについてレポートを提出すること。その内容は以下のようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 講義内容に関して、 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことが分かったか ・それに関して、現代の子どもが社会的により健康的であるためには、今後どんな関わり・取り組みが必要と考えるかを記載してください 																						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】																		
教科書・参考書等に関する記述欄																							
自由記述欄	・第1回の講義時に、この講義のシラバスを配布予定																						

科目コード	5130061	単位	2	時間数	30		
授業科目名	医学と健康 B - 加齢と保健医療 -	開講学期等	後期	時間割	木3・4		
授業科目名英字	Medical Science and Health IIB:aging and health care						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
浅沼 義博	医学系研究科保健学専攻	C-112・6524	6524	ほか看護学専攻教			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜担当教官と連絡		【場所】	適宜担当教官と連絡		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。				1) 加齢に応じた健康保持法, 医療への関わり, 医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し, 高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について, 具体的に問題提起し考察することができる。			
カリキュラム上の位置付け	加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 加齢に伴う身体的精神的变化を理解し, 高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探究する。						
	【進行予定と進め方】						
	担当	講義の内容					
	1.熊澤 由美子: 地域・老年看護学講座	10/4/12	高齢社会における保健医療福祉の課題				
	2.熊澤 由美子: 地域・老年看護学講座	10/11	加齢と障害				
	3.煙山 晶子: 地域・老年看護学講座	10/18	高齢者ケア(1)				
	4.煙山 晶子: 地域・老年看護学講座	10/25	高齢者ケア(2)				
	5.鈴木 圭子: 地域・老年看護学講座	11/1	高齢者の心のケア(1)				
	6.鈴木 圭子: 地域・老年看護学講座	11/8	高齢者の心のケア(2)				
	7.長岡 真希子: 地域・老年看護学講座	11/15	高齢者と家族(1)				
	8.長岡 真希子: 地域・老年看護学講座	11/22	高齢者と家族(2)				
	9.百田 芳春: 基礎看護学講座	11/29	加齢と身体機能変化(1)				
	10.百田 芳春: 基礎看護学講座	12/6	加齢と身体機能変化(2)				
	11.百田 芳春: 基礎看護学講座	12/13	加齢と身体機能変化(3)				
	12.水沼 秀夫: 基礎看護学講座	12/20	加齢と栄養(1)				
	13.水沼 秀夫: 基礎看護学講座	1/10/13	加齢と栄養(2)				
	14.水沼 秀夫: 基礎看護学講座	1/17	加齢と栄養(3)				
	15.浅沼 義博: 臨床看護学講座	1/24	加齢と手術				
	16.テスト	1/31	記述式テスト				
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康				
	ケア	栄養	障害				
	身体機能変化						
成績評価の方法	講義出席状況(2/3以上)を満した上で, 学習意欲・態度(10%), テスト(90%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない。						
自由記述欄							

科目コード	5130090			単位	2	時間数	30
授業科目名	がん医療と緩和ケア			開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	cure for cancer and palliative care						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択必修
				受講対象学生	全学 1・2年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
伊藤 登茂子	保健学専攻	C-209	018-884-6519	浅沼 義博	保健学専攻	A-103	018-884-6524
水沼 秀夫	保健学専攻	C-113	018-884-6522	兒玉 英也	保健学専攻	C-114	018-884-6513
中村 光江	保健学専攻	D-303	018-884-6546	渡邊 知子	保健学専攻	C-207	018-884-6539
高階 淳子	保健学専攻	D-309	018-884-6551				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 16:00 - 16:15		【場所】	講義室または各教員研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
「がん」という病い、そして生活者たる人々にある「がん」、および治療的行為(cure)と援助的医療行為(care)の理解を通して、「がん」との向き合い方を学ぶ。				1) 日本における「がん」の実態と課題について理解できる。 2) 「がん」とともに生きる人々の全人的理解について述べるができる。 3) 「がん」の予防と療養における栄養について述べるができる。 4) 「がん」と遺伝子とのかわりについて理解できる。 5) 発生頻度の高い「がん」の特徴と治療、およびがん医療の未来について理解を深めることができる。 6) 「がん」とともに良く生活するための症状マネジメントについて、理解することができる。 7) 身体的・心理的・社会的苦痛とスピリチュアルペインについて述べるができる。			
カリキュラム上の位置付け	大学生として社会の期待に応えられる資質の涵養を目指し、教養基礎教育科目として位置づける。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 講義を主としながら、がんの成り立ち、治療、ケアについて現状の理解を深め、がんとともにいかにより良く生きるか、どのように向き合うかを共に考える。 【進行予定と進め方】 1・2回(10/4、11)がん看護総論(伊藤) 3・4回(10/18、25)がんの予防と療養における栄養(渡邊) 5・6・7回(11/1、8、15)がん医療の現在と未来(浅沼) 8回(11/22)がん概日リズム(兒玉) 9回(11/29)がん遺伝子(水沼) 10回(12/6)がん患者の症状マネジメント(渡邊) 11回(12/13)がん患者の症状マネジメント(高階) 12回(2013年1/10) 同上 (高階) 13・14・15回(1/17、24、31)がん患者・家族の苦痛や苦悩と緩和ケア(中村) 16回(2/7)試験						
授業に関連するキーワード	がんの動向		がん看護		生活習慣		
	がん医療		全人的理解		緩和ケア		
	症状マネジメント						
成績評価の方法	2/3以上の出席を試験の受験資格とし、筆記試験で60/100点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『19歳の君へ - 人が生き、死ぬということ』		日野原重明 編著	春秋社	2009	
	参考書	『トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント』		Twycross, R., 武田文和	医学書院	2010	
	参考書	『ケアの思想と対人援助』		村田久行	川島書店	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130101	単位	2	時間数	30		
授業科目名	大学生と健康 B - 上手に生きる為の基礎知識 -	開講学期等	後期	時間割	木7・8		
授業科目名英字	Student and Health A:A primer of mental and physi						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287	2287	小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		佐藤 朗	非常勤講師	2286	
草薙宏明	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
武村尊生	非常勤講師	2286					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日 9:00 - 17:00		【場所】	保健管理センター		
授業の目的				授業の到達目標			
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。				健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。			
カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>1) 人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持つておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を含めて学ぶ必要がある。</p> <p>2) また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、ますます多くの知恵や知識が必要となってきている。この講義では、深層心理や人格・性格・鬱病や自殺、宗教やカルトの問題なども取り上げて解説する。</p> <p>3) 食事、睡眠、性欲、妊娠、出産、外傷や救急処置など、生活上の基本的な事柄についても、時間の許す限り専門家がわかりやすく実践的な知恵と知識を提供するように配慮している。</p> <p>4) これらを担当する教官は、内科学、精神医学、婦人科学、救急医学、心理学、宗教学などの専門家であり、各方面からの健康の守り方について、スライドやビデオなども用いて、具体的に講義する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ1.5ヶ月に1本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは1本ずつ評価して、テスト成績に加点する。</p>						
授業に関連するキーワード	心と体の健康保健	成人病・鬱病・痴呆		睡眠障害と心身の調子			
	生活構造と人生・宗教	飲酒と喫煙の害と発癌		エイズ・妊娠・出産			
	救急措置・海外渡航						
成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答）、及びレポートを統合して行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『学生と健康』		国立大学法人保健管理	南江堂	2011年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130140	単位	2	時間数	30時間		
授業科目名	外科手術と手術機器の進化	開講学期等	後期	時間割	水9・10		
授業科目名英字	Evolution of the surgical devices and its procedure						
備考	授業の形式		講義・学生参加型	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1, 2, 3, 4年生				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		特になし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
安藤秀明	戦略的外科系医師養成ブ	6471	884-6471	南谷佳弘	呼吸器外科	6128	884-6128
石橋和幸	心臓血管外科	6135	884-6135	森井真也子	小児外科	6143	884-6143
他 非常勤講師							
オフィスアワー	【曜日及び時間】	II期 水曜日9・10時限		【場所】	医学部 第一講義室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>外科手術の進歩が、麻酔・消毒法・手術機器の開発によって飛躍的に進化し、変貌していることを理解する。 外科サブスペシャリティの特徴を理解する。 手術機器操作を体験する。</p>				<p>1. 外科治療の歴史を理解し、進歩の要因を説明することができる。 2. 安全な手術のために必要な麻酔の重要性を説明できる。 3. 手術の安全性・確実性・低侵襲性を実現するために、手術機器が開発されてきた経緯を説明することができる。 4. 外科サブスペシャリティの特徴を説明できる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	外科系手術手技、その開発に関わる機器の進歩に関心を持つ学生・一般に向けた基礎科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 手術機器はその原理を講義で理解し、実際に操作体験を行う。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科の歴史 2. 創傷治療 3. 手術機器の進化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 縫合糸 2) エネルギーデバイス（電気メス、超音波凝固切開装置、熱凝固装置、超音波破砕器など） 3) 鉗子 4) ディスポーザブル物品 5) 光学機器 4. 内視鏡手術 5. 鏡視下手術（腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術） 6. ロボット支援手術 7. 医療機器管理 8. 外科サブスペシャリティ：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科 						
授業に関連するキーワード	外科医学史		光学機器		手術機器		
	消毒		創傷治療		鏡視下手術		
	エネルギーデバイス						
成績評価の方法	提出物（レポート 他）・試験						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	資料を随時配布する。						
自由記述欄							

科目コード	5140031		単位	2	時間数	30	
授業科目名	社会と地域B - 都市社会学の基礎 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	(「教養基礎教育」では特になし)		履修する際に前提とする授業科目	(特になし)			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉 浩	教育文化学部	教育文化学部3号館322	018-889-2649			e-mail: izumi@ed.akita-	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時		【場所】	教育文化学部3号館322		
授業の目的				授業の到達目標			
現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。				1.社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2.社会学の基本的な考え方を理解する。 3.都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>授業予定(以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します)。</p> <p>第1講 授業についての説明 第2講 現代社会と社会学 第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講 国民国家の形成と社会科学 第5講 産業革命と都市化 第6講 消費社会と都市 第7講 都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講 国際化、グローバル化と都市 第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講 都市とユニバーサルデザイン 第11講 都市社会学の主要な理論の潮流 第12講 ジンメルの都市論 第13講 シカゴ学派の都市社会学 第14講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学2</p>						
授業に関連するキーワード	社会学	都市	社会理論				
	空間論的転回	国家	グローバル化				
	地域	消費社会					
成績評価の方法	<p>授業に関連する内容についての小テスト(複数回の場合あり)とレポートで成績を評価します。</p> <p>・小テスト(40点):授業内容について理解しているかの確認 ・レポート(60点):授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外です。</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考書	『都市空間の地理学』	加藤政洋・大城直樹編	ミネルヴァ書房	2006		
	参考書	『地図の想像力』	若林幹夫	講談社選書メチエ	1995		
	参考書	『鉄道旅行の歴史』	シヴェルブシュ	法政大学出版局	1982		
	参考書	『ジンメル・エッセー集』	ジンメル	平凡社ライブラリー	1999		
参考書	『Sociology, 6th edition』	Anthony Giddens	Polity Press	2009			
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書と参考文献(和書および英語の文献)は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。教科書、参考書を、あらかじめ購入する必要はありません。						
自由記述欄	授業に関連する内容で、取り上げて欲しいテーマがあれば、直接あるいはメール等でお知らせください。対応可能なものについては、授業で取り上げます。						

科目コード	5140050			単位	2	時間数	30
授業科目名	秋田の自然と文化 - 秋田の食 -			開講学期等	後期	時間割	金7・8
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita I : Dietary Habits in Akita						
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1号館203室	018-889-2530				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日9・10時限		【場所】	教育文化学部1号館203号室		
授業の目的				授業の到達目標			
秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える。				1) 食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。 2) 食の地域性とその要因について、事例(秋田の食、出身地の食)をあげて説明できる。 3) 食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。 4) 官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。 5) 各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。			
カリキュラム上の位置付け	主題別科目【地域社会】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】						
	【進行予定と進め方】 1. ガイダンス：地域とは？ 食文化とは？ 2. 食生活の構造(食行動分析)何のために食べるのか？ 3. おいしさのメカニズム(官能評価・嗜好調査)おいしいと思う理由は？ 4. 食嗜好の形成要因(食歴調査)食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？ 5. 米食の文化(官能評価)米飯嗜好に個人差や地域差はあるか？ 6. 米食の文化(資料分析)米食の国内比較・国際比較 7. 米食の文化(グループ活動1)秋田の米食は？ 地域の米食は？ 8. 米食の文化(グループ活動2)秋田の米食は？ 地域の米食は？ 9. 活動報告会：「地域と食文化を考える-米食文化を中心として」 10. 秋田の食文化(資料分析)食材・調理加工法に地域差はあるか？ 発酵食とは？ 11. 秋田の食文化(資料分析)塩味・甘味嗜好に地域差はあるか？ 12. 秋田の食文化(官能評価)秋田の食の特徴は？ 13. 行事と食(資料分析)行事食が継承される理由・継承されない理由は？ 14. 地域と食文化を考える(グループ活動3) 15. 総括：地域と食文化 *授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析などを個別あるいはグループ別に実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。 *集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。 *学生への質問、討論は随時行う。 *PCプロジェクターは随時活用する。						
授業に関連するキーワード	食生活	食文化			食嗜好		
	地域	秋田			米食		
成績評価の方法	毎時間の課題・評価用紙の提出および内容(60点)...到達目標1)2)3)4) グループ活動報告書および期末レポート(40点)...到達目標3)4)5)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『日本の食文化 その伝承と食の教育』			江原絢子・石川尚子	アイ・ケー・コーポ	2009
	参考書	『あきた郷味風土記』			秋田県農山漁村生活研	カッパン・プラン	2005
教科書・参考書等に関する記述欄	資料を配布する。その他の参考書については、授業テーマに応じて適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140091		単位	1	時間数	15		
授業科目名	秋田の自然と文化 B - 秋田の自然・資源・社会・文		開講学期等	後期後半	時間割	木7・8		
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita IVB:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita							
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択		
			受講対象学生	全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
今井 亮	地球資源	工資G309	889-2371	石山 大三	環境資源センター	工資セ218	889-2447	
内田 隆	地球資源	工資B304	889-2652	井上 正鉄	人間環境	教文4-412	889-2588	
石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616	小泉 幸央	医学部分子機能学・代謝	医	884-6075	
大場 麗奈	医学部内科学第1講座	医	884-6104					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜, 16:00-17:00		【場所】	工資G309・889-2370			
授業の目的				授業の到達目標				
秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、爾後の専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。				1) 限りある地下資源の基礎的知識を学習し、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) 遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解することができる。 5) 胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる。				
カリキュラム上の位置付け	人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う(本年度の担当責任者は今井亮)。							
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 1) 世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源、資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学。 2) エネルギー資源の賦存状況、秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 3) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系、人間との共存についての講義。 4) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 5) 遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用するための講義。 6) 胃癌について、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解するための講義。 【進行予定と進め方】 第1回(今井亮): 秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源を概説し、秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術について紹介し、資源問題を考える。 第2回(石山・今井): 地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学・観察する(学生ボランティアも参加)。< 鉱業博物館玄関に集合 > 第3回(内田): 限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し、その基礎的知識を学習する。秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 第4回(井上): 世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。 第5回(井上): 秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり、両地共にブナ林に覆われ、そこには国指定天然記念物であるイヌワシ、クマガウラを始め貴重な鳥獣が生息している。秋田が誇る生態系の構成員である貴重な鳥獣の生態を紹介、人間との共存の道を探る。 第6回(石沢): 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 第7回(小泉): 微生物が生産する高脂血症治療薬「スタチン」の開発を紹介し、遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解する。 第8回(大場): 「胃癌について」日本は欧米に比し胃癌の発生が多いことが知られている。その日本の中でも秋田県の胃癌発生率は高く、胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解する。							
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地	秋田の自然	秋田の地域社会	微生物と創薬	癌	鉱業博物館
成績評価の方法	授業内容に関するレポート(50%)、簡単な小テスト(50%)で評価する。							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】			
教科書・参考書等に関する記述欄	特に使用しない							
自由記述欄								

科目コード	5140120		単位	1	時間数	15	
授業科目名	秋田戦略学 - 秋田の地域理解と活性化 -		開講学期等	後期前半	時間割	木18～20時	
授業科目名英字	Strategic Approach to Akita Issue II						
備考	秋田カレッジプラザで開講（秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル2階）			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1・2年		
内容的に密接に関係する授業科目	秋田戦略学			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟1階事務室内	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
	授業の目的			授業の到達目標			
	<p>「秋田戦略学」は、秋田の高等教育機関に所属する研究者が連携し、地域ならではの課題を学術的な研究や調査に基づいて考察するものです。秋田という地域が抱える課題を発見し、それぞれの課題解決の方策や展望について教員と学生がともに考えていきます。</p> <p>特にこの授業では、課題解決へのアプローチを特定の学問分野に限定せず、理系・文系という二分法を乗り越えて様々な観点から考察することを特徴としています。</p>			<p>・地域が抱えている課題の構造を図や表を用いて表現することができる。</p> <p>・地域が抱えている課題の今後の展望について、自分なりの考えを文章にすることができる。</p> <p>・秋田という地域が発展していくための作戦を述べるることができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目、主題別科目。 ・単位互換科目として、県内の他大学の学生も受講する。 ・大学コンソーシアムあきたの高大連携授業科目として、高校生も受講する。 						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>「秋田の地域理解と活性化」では、秋田を元気にしていくためにまずは秋田という地域をよく理解すること、つまり、他地域にはない特徴や良い面に気づき、それを伸ばしていく方策を考えていきます。若者らしい豊かな発想を持って集まって下さい。多彩な専門分野の講師陣と秋田を元気にする手立てについて考えてみませんか？</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>科目コーディネーター 勝又美智雄（国際教養大学・教授、図書館長）</p> <p>授業内容 （順番は仮のもので、第1回の際にお知らせします）</p> <p>第1回 授業の総論 第2回 中心市街地のにぎわい創出 第3回 中心市街地の観光資源 第4回 内陸線沿線の観光資源 第5回 地域におけるアートの役割 第6回 秋田の都市景観を考える 第7回 デザインから見た建物と景観 第8回 授業のまとめ 休日を利用した特別講義 秋田市内観察</p> <p>授業形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回で採用する授業方法は主に講義形式で、これに学生による調査、討議、報告等も加えていきます。 ・複数の機関の教員で授業を担当します。（担当予定教員の所属……国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術工芸短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校、秋田大学） 						
授業に関連するキーワード	秋田	観光資源	中心市街地				
	アート	内陸線	地域活性化				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回に、到達目標に応じた小レポートを課します。また最終試験としてレポートを課す予定です。6回以上の出席がない場合は成績評価の対象としません。 						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書……指定しません。 ・参考書……各回に紹介します。 						
自由記述欄							

科目コード	5140150		単位	1	時間数	15	
授業科目名	秋田戦略学		開講学期等	後期後半	時間割	木18～20時	
授業科目名英字	Strategic Approach to Akita Issue V						
備考	秋田カレッジプラザで開講（秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル2階）			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1年		
内容的に密接に関係する授業科目	秋田戦略学			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟1階事務室内	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
	授業の目的			授業の到達目標			
	<p>「秋田戦略学」は、秋田の高等教育機関に所属する研究者が連携し、地域ならではの課題を学術的な研究や調査に基づいて考察するものです。秋田という地域が抱える課題を発見し、それぞれの課題解決の方策や展望について教員と学生がともに考えていきます。</p> <p>特にこの授業では、課題解決へのアプローチを特定の学問分野に限定せず、理系・文系という二分法を乗り越えて様々な観点から考察することを特徴としています。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱えている課題の構造を図や表を用いて表現することができる。 ・地域が抱えている課題の今後の展望について、自分なりの考えを文章にすることができる。 ・秋田という地域が発展していくための作戦を述べることができる。 			
カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目、主題別科目。 ・単位互換科目として、県内の他大学の学生も受講する。 ・大学コンソーシアムあきたの高大連携授業科目として、高校生も受講する。 						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 「メンタルヘルスと自殺予防対策」では、精神の健康に関わる課題を人間の発達段階に応じて論じ、また自殺をいかに予防するかについて考えていきます。</p> <p>【進行予定と進め方】 科目コーディネーター 佐々木久長（秋田大学医学部・准教授） ・複数の機関の教員で授業を担当します。（担当予定教員の所属……国際教養大学、聖園学園短期大学、日本赤十字秋田短期大学、秋田大学）</p> <p>授業内容 （順番は仮のもので、第1回の際にお知らせします） 第1回 授業の総論 第2回 地域づくりと自殺予防対策 第3回 心を大切にすることについて 第4回 地域高齢者の生活とメンタルヘルス 第5回 成人期のメンタルヘルス 第6回 身体の健康とメンタルヘルス 第7回 子どもの心とメンタルヘルス 第8回 授業のまとめ</p> <p>授業形態 ・各回で採用する授業方法は主に講義形式で、これに学生による調査、討議、報告等も加えていきます。</p> <p>授業方針と留意点 教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。学生の皆さんに身近なテーマを取り上げる予</p>						
授業に関連するキーワード	心の健康	自殺予防	地域				
	高齢者	身体の健康	発達段階				
成績評価の方法	・各回に、到達目標に応じた小レポートを課します。また最終試験としてレポートを課す予定です。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書……指定しません。 ・参考書……各回に紹介します。 						
自由記述欄							

科目コード	5150050	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本語リテラシー - 表現力 -	開講学期等	後期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Japanese Literacy						
備考	授業の形式		講義・演習	必修・選択	選択		
	受講対象学生		1年次以上				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷 秋生	教育推進総合センター	学生支援棟 2階	2 2 5 2	栗城 宏	非常勤講師		
畠山 民栄	非常勤講師						
オフィスアワー	【曜日及び時間】	銭谷：水曜 3・4		【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
1)演劇的手法を使って演習を行い、現代人に必要な会話によるコミュニケーション能力を高める。 2)「相手を認める」ことがコミュニケーションの第一歩ということを受け止める。				1)相手の話を受け止め、自分の考え・意志を相手にしっかりと伝える事ができるようになる。 2)急に人前に出たスピーチに際して、自分の思いを伝えることができるようになる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 前半は、短い戯曲を用いて演劇の稽古を行う。その際に留意することは、登場人物の心理の変化を台詞から読み取り、自分の心理の変化として相手に投げかけること。また、相手の台詞からもらう言葉によって再び心理の変化が起き、次の言葉を生み出す。この連続する作用によってドラマを浮き立たせていく。 後半は、スピーチの技法を学びながら、「言葉が届く」とはどういうことかを考える。</p> <p>【進行予定と進め方】 1回 自分の言葉で語る。 演劇の基礎。シアターゲームなどを用いて、自分の思いを自分の言葉で語る。 2回 声の拡大。心理の拡大。 発声の基礎。「走れメロス」を用いて心理的極限状態の声をさぐる。 3～6回 戯曲の台詞を読む。(わらび座の上演作品から抜粋) 読み合わせ。役の台詞を読み、心理の変化を探る。 演劇演習(わらび座の上演作品から抜粋) 立ち稽古。しっかりと相手役と会話をする。 7回 まとめ 成果発表。 8～14回 実技を交えながら進める。 「話す前に”姿”有り」話すことのトータルな部分を学ぶ 自己紹介「自分を印象づけるには…」 新聞・雑誌の記事の中から…「3分～4分くらいのスピーチを」 その場でのスピーチ 朗読「資料有り」 15回 最終日は「自分の が好きになりました」のテーマでスピーチ 大きな出来事があった時は、タイムリーに取り上げ、スピーチをしてもらう。</p>						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	成果発表時の実技、授業時の発表と期末のレポートにて評価する。 台詞の理解力があるか。多様な心理変化の表現が的確かどうか。会話が成立しているか。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	プリントを配付し演習を行う。参考文献はその都度紹介する。						
自由記述欄	『人は一人にらず』相手を認めることができるかどうか、社会人としての基本を学んでいきたい。						

授業科目名	第二言語習得論			科目コード	6014725
授業科目名英字	Introduction to Second Language Acquisition I				
開講学期等	後期	単位	2	授業の形式	演習
時間割	後期 水曜日 1・2時限				
履修する際に前提とする授業科目	なし	内容的に密接に関係する授業科目	前期の「応用言語学I」と合わせて履修するようにしてください。英語科教育学概論II、英語科教育学演習、応用言語学I、II、第二言語習得論 II、教育実習事前事後指導I、II、外国語		
教員免許取得	中 種（英語）必修科目，中 種・高（英語）選択科目		保育士(学部) / 臨床心理士(大学院)資格取得		
担当教員名，所属，学内室番号・電話番号					
佐々木雅子 教科教育学 3-249・889-2638					
オフィスアワー					
3-249 水曜日10:30-12:00					
授業の目的と到達目標					
1) To understand how similar or different FLA and SLA are (knowledge) 2) To understand some SLA terms and their background knowledge (knowledge) 3) To reflect on your own language learning (knowledge, skill, interest) 4) To reflect on your own language teaching (knowledge, skill, interest) 5) To identify problems in a teaching plan, understand why they are problems, and think about how to revise them (knowledge, skill)					
授業の概要と進行予定及び進め方					
第1回(10/3) Introduction 第2回(10/10) How similar or different are FLA and SLA? 第3回～11回(10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 11/28, 12/5, 12/12) 1) Lecture and Discussion about SLA theory 2) Reflection on your own language learning and teaching 3) Paper Test on 12/12 第12, 13, 14回(12/19, 1/9, 1/16) Revise your teaching plan and preparation for term-end presentation 第15回(1/23) Term-end Presentation (1) 第16回(1/30) Term-end Presentation (2)					
教科書	Relevant materials to be used 文部科学省. (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開三堂出版 文部科学省. (2009) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf 文部科学省. (2008) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社				
参考書等	・ Ingram, D.E., Kono, M., O'Neill, S., & Sasaki, M. (2008). Fostering Positive Cross-Cultural Attitudes through Language Teaching. Maleny, QLD, Australia: Post Pressed. ・ 小柳かおる(2004) 日本語教師のための新しい言語習得概論 スリーエーネットワーク				
成績評価の方法	授業への取り組み(10%)，課題への取り組み(30%) プレゼンテーション(30%)，レポート(30%) 欠席(未提出)が5回に達した時点で履修放棄とみなす。				
授業関連キーワード	First Language Acquisition (FLA), Second Language Acquisition (SLA), language learning, language teaching, reflection				
備考	課外の時間帯ではあるが、毎週(曜日は調整中) 19:00 to 20:00 カレッジプラザにて、または、メールやvideo chatでALT等と英語を用いた交流を行う。*TOEFL ITPを2月に受けます(4,000円程度/回)。「応用言語学I」を履修していない学生はと10月にも受けます。*Make the most of this course to improve your English ability, *Think over what sort of language learning is effective.				